

神保町地区町会マップ

住む街・働く街・学ぶ街
「神保町」



千代田区役所ホームページ
神保町出張所地域

町会区域住所

- ① 神田神保町一丁目の奇数番地
- ② 神田神保町一丁目の偶数番地
- ③ 神田神保町二丁目2・12～30と42～48の偶数番地、西神田二丁目1・2・7・8番
- ④ 神田神保町二丁目4～10と32～40の偶数番地
- ⑤ 神田神保町三丁目
- ⑥ 西神田一丁目、西神田二丁目3～6番
- ⑦ 西神田三丁目
- ⑧ 神田三崎町一丁目、神田三崎町二丁目1・8・9・22番（1～7号）
- ⑨ 神田三崎町二丁目2～7・10～21・22番（1～7号を除く）、神田三崎町三丁目
- ⑩ 神田猿楽町一・二丁目
- ⑪ 神田神保町二丁目の奇数番地、一ツ橋二丁目
- ⑫ 神田駿河台一・二・四丁目5番地

あなたのお住まいを管轄する
千代田区の出張所は・・・

神保町出張所です！

住所 〒101-0051 神田神保町二丁目40番地

電話 03-3263-0741

神保町地区 町会と町名の歴史

住む街・働く街・学ぶ街
「神保町」

町会名	歴史
① 神保町一丁目町会	江戸時代、この界隈には武家屋敷が立ち並んでいました。神保町の由来は、元禄年間のころ、旗本の神保長治が広大な屋敷を構え、そこを通っていた小路が「神保小路」と呼ばれるようになったためといわれています。ここに表神保町、裏神保町などの町が誕生したのは明治5年です。昭和9年には通神保町、表神保町、表猿楽町などが神保町一丁目となり、さらに昭和22年に神田区と麴町区が合併して千代田区ができると、現在の神田神保町一丁目となりました。 
② 神保町一丁目北部町会	江戸時代には、神田神保町一丁目北部（偶数番地）のうち、西側は一橋小川町と呼ばれ、東側は表猿楽町と呼ばれていました。明治5年にこの一帯に猿楽町という名が付けられ、明治44年に猿楽町は一旦表猿楽町となりましたが、関東大震災後の区画整理の際に、西神田一丁目と神保町一丁目に変わりました。また、この区画整理で、町割りも変わり、道路を中心にその両側が町域になる「両側町」という伝統的な方式が採用されました。そのため、靖国通りをはさんで南に奇数、北に偶数の番地が交互に振られています。 
③ 神西町会	ここはかつて中猿楽町と呼ばれていました。室町以降、猿楽（のちの能楽）は武士たちに生まれ、中でも観阿弥・世阿弥の流れを継ぐ「観世座」は、幕府から手厚い保護を受けていました。その家元観世太夫らの屋敷があったことから、「猿楽町」という名が生まれました。「中猿楽町」という町名が正式に誕生したのは明治5年です。この地域の町会は、その名に「中猿」の二文字を残し、神田中猿町会と名乗っていましたが、昭和29年、神保町と西神田の町名から「神西町会」と改めて現在に至っています。 
④ 北神町会	江戸時代には武家地だったこの土地に、「北神保町」という町名が誕生したのは明治5年のことです。明治以降、神田・お茶の水界隈には、学校が立ち並ぶようになり、北神保町にも明治43年に東洋家政女学校が誕生しています。この学校で毎年開催されていた愛全地蔵を祀る祭礼は、今も地域に受け継がれています。また、明治23年には、北里柴三郎博士から指導され、感染症の患者を受け入れる神保院という病院が開設されています。この一帯は、明治以降、教育と医療の町に生まれ変わり、発展してきました。 
⑤ 神保町三丁目町会	江戸時代、この界隈は、武家屋敷が軒を連ねていました。その中でも高家旗本の今川家の屋敷前の通りは今川小路と呼ばれ、明治5年には、今川小路一丁目、同二丁目、同三丁目という町も生まれています。また、日本橋川に架かる「俎橋」は、江戸時代ははじめのころから伝わる名前です。この界隈は明治後半になると活気あふれる商業地に生まれ変わり、いまの町の原型が形づくられていきました。昭和9年、今川小路一丁目、同二丁目、同三丁目の一部が合併して神保町三丁目となり、昭和22年、神田神保町三丁目となりました。 
⑥ 西神田町会	江戸時代にこの界隈は、武家屋敷が立ち並ぶ地域でした。当時の武家地には正式な町名がなく、江戸城の北西一帯は、小川町という俗称で呼ばれていました。明治5年には町名が付けられ、「猿楽町」や「中猿楽町」「今川小路三丁目」「西小川町一丁目」「西小川町二丁目」といった町が成立しました。昭和9年、表猿楽町と中猿楽町の北側が合併し西神田一丁目、西小川町と今川小路三丁目の一部などが西神田二丁目となりました。「西神田」という町名は、当時の神田区の西側に位置していたため生まれた名前です。 

町会名	歴史
⑦ 西神田三丁目町会	江戸時代の小川町は、現在の千代田区神田界隈の西半分を占める広大な武家地をさす俗称でした。明治5年に付けられた西小川町という町名は、その中でも西側に位置していたことから名付けられました。明治以降、町内には獨逸学協会学校、東京看護学校、数理学舎などが次々と建てられ、文教の町に生まれ変わりました。昭和9年、西小川町二丁目と今川小路三丁目の一部が西小川町一丁目と合併して、西神田二丁目となります。昭和42年、このうち旧西小川町二丁目の区域が分割されて、西神田三丁目が生まれました。 
⑧ 神田三崎町一丁目町会	JR水道橋駅のすぐ南側には三崎稲荷神社が鎮座しています。江戸時代には三代将軍家光ばかりでなく、参勤登城する大名は必ず、まず三崎稲荷神社に参拝し心身を清めたそうです。武家地であった三崎町は、明治中期を過ぎると劇場や飲食店が増え、賑やかな歓楽街へと生まれ変わります。三崎町一丁目は、関東大震災後に三崎町二丁目と統合されます。昭和22年に千代田区ができ、神田三崎町一丁目となりました。そして昭和42年の住居表示で、旧三崎町一丁目だった区域が再び三崎町一丁目と定められましたが、平成30年からは神田冠称の実施により、千代田区発足当初の神田三崎町一丁目に再び戻っています。 
⑨ 神田三崎町町会	江戸幕府が開かれる頃まで、この界隈は、日比谷入江という遠浅の海に突き出た土地の端にあったため、「ミサキ」村と呼ばれていました。やがて江戸幕府が開発に力を注ぎ、武家屋敷が立ち並ぶ町に変わり、江戸時代を通じて小川町と呼ばれました。明治5年にこの界隈は三崎町と改称され、開発も始まりました。劇場の三崎三座や神田パノラマ館ができ、日本法律学校（現・日本大学）も移転してきました。昭和22年千代田区の成立時に神田三崎町となりましたが、昭和37年の住居表示により三崎町に戻り、平成30年には神田冠称の実施により、再び神田三崎町となっています。 
⑩ 神田猿楽町町会	猿楽（のちの能楽）は、室町時代以降、多くの武士たちに楽しめるようになり、中でも観阿弥・世阿弥の流れを受け継ぐ「観世座」は、江戸幕府から手厚い保護を受け、その家元観世太夫や一座の人々の屋敷が、現在の神田神保町一～二丁目辺りにあったことから、この一帯に「猿楽町」という名が生まれました。この界隈は主に武家屋敷が軒を連ねていましたが、もともと武家地には町名が付けられていなかったため、明治5年に猿楽町という町名が誕生しました。その後長い年月を経て、平成30年には三崎町と共に神田冠称により神田猿楽町となっています。 
⑪ 一神町会	一神町会は、神田神保町と一ツ橋の2つの町から成り立っています。神保町の町名の由来は、現在のさくら通りの辺りに、旗本の神保長治が広大な屋敷を構えたことです。また、一ツ橋は、日本橋川に架けられた橋の名称に由来します。明治5年にこの地区は南・北神保町となりました。付近には開成学校をはじめ、東京大学、東京英語学校などがあったため、神保町一帯には書店が軒を並べるようになり、神保町は昭和22年に神田神保町と改められ、隣り合う一丁目や三崎町なども含む古書店街として発展を続けてきました。 
⑫ 駿河台西町会	高台である「駿河台」は元来、本郷・湯島台と地続きで「神田山」と呼ばれていました。徳川家康が駿府で没した後、駿河から帰ってきた旗本（駿河衆）たちが、江戸城に近く富士山が望めるこの地に多く屋敷を構えたことから、この地は駿河台と呼ばれるようになりました。明治に新たに定められたこの地域の町名は、駿河台西紅梅町等5つに分かれていましたが、昭和8年に、駿河台1丁目、2丁目に町名が変更され、現在もこの地名で親しまれています。 